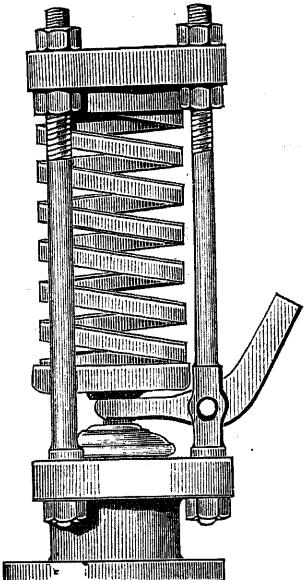


八十七圖に示す如く Stand pipe 水塔管を設くるを要す。

水衝力は前に一平方時に 100 「ボンド」と假定したれども一定のものにあらず流水の速度、管の太さ、

管の長さ、管の材質と開閉弁を閉づる時間とによるものにして委しきことを知らんと欲せば

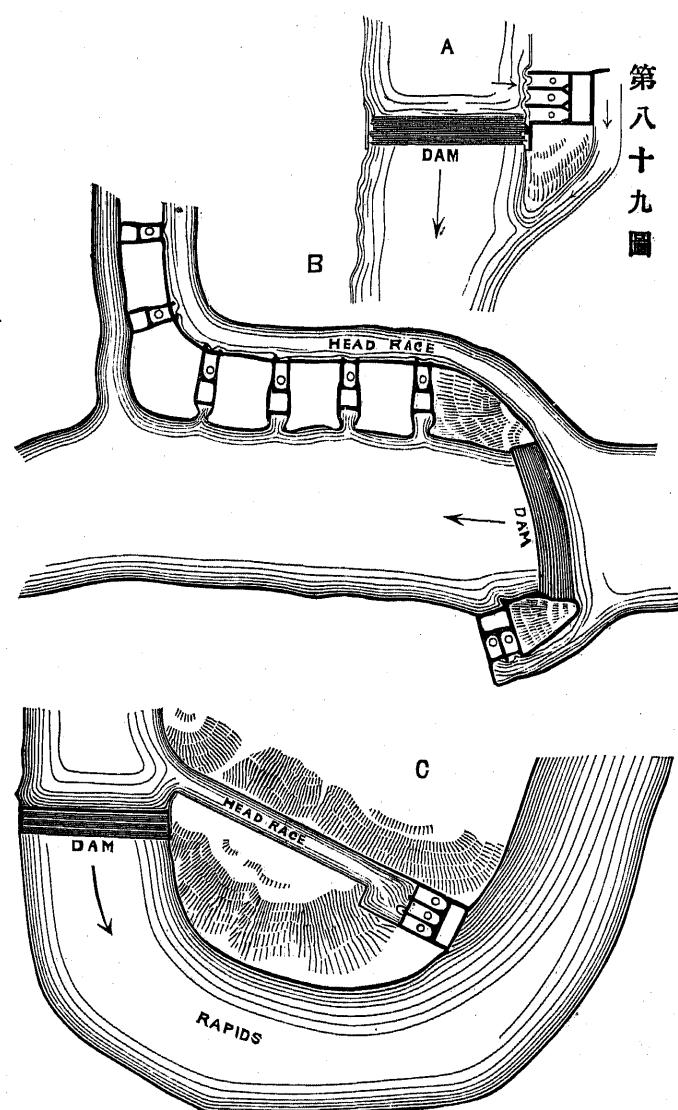


Gibson-Water ram in
hydraulic pipe line

Mead-Water power engineering (1908) p 446 - 468 を見るべし。

水車場

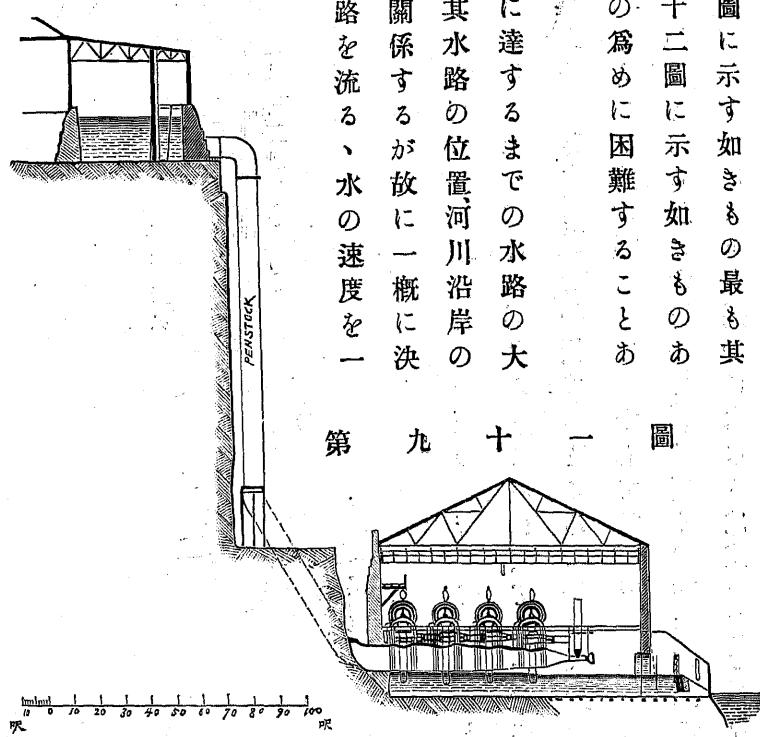
堰堤、取入口、水車室等の配置は地形によりて種々あり、河川を切り堰堤を作り其傍に水車場を置くものは第八十九圖に示す如く。



第八十九圖

水路を作つて他に水を導き水車場を設置するものは第九十圖の如し。

水車場



壓力水管

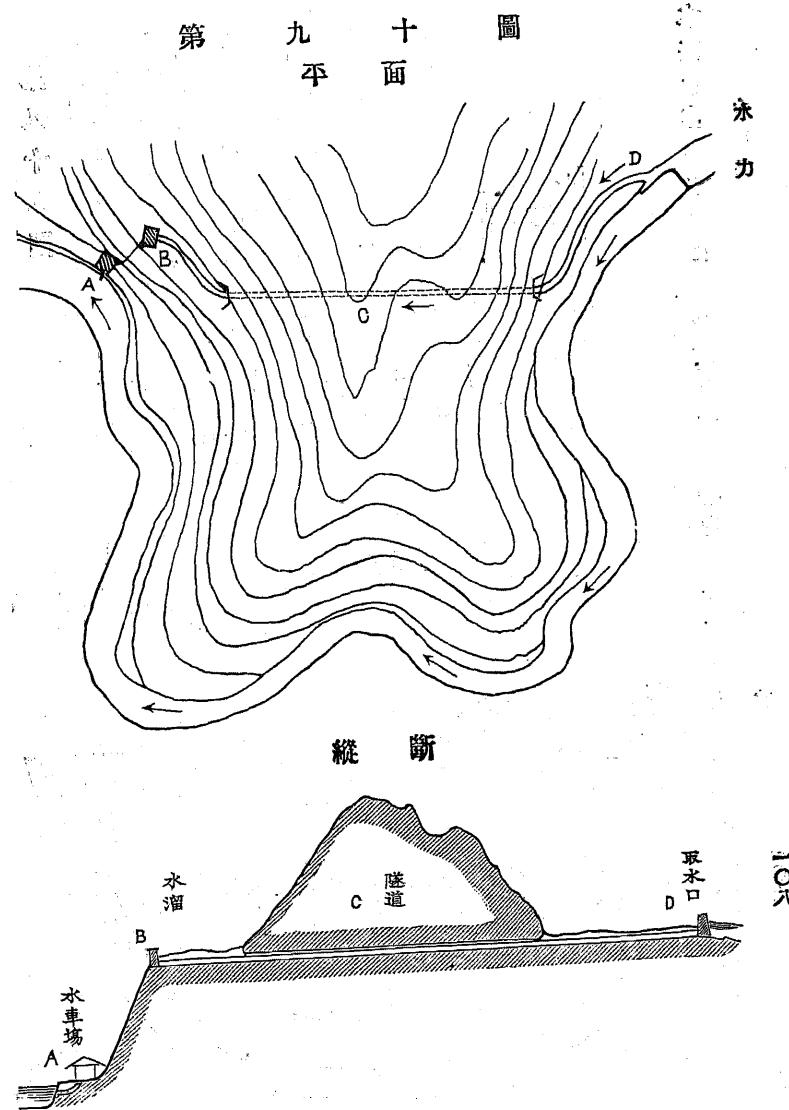
發電所の形は第九十一圖に示す如きもの最も其例多けれども又時に第九十二圖に示す如きものありと雖も電氣機械其濕氣の爲めに困難することある注意を要す。

水の取入口より水車場に達するまでの水路の大きさ及構造を定むることは其水路の位置、河川沿岸の状況、地質、水路の長さ等に關係するが故に一概に決定し難しと雖も普通は水路を流る、水の速度を一秒時間三呎乃至六呎とす。

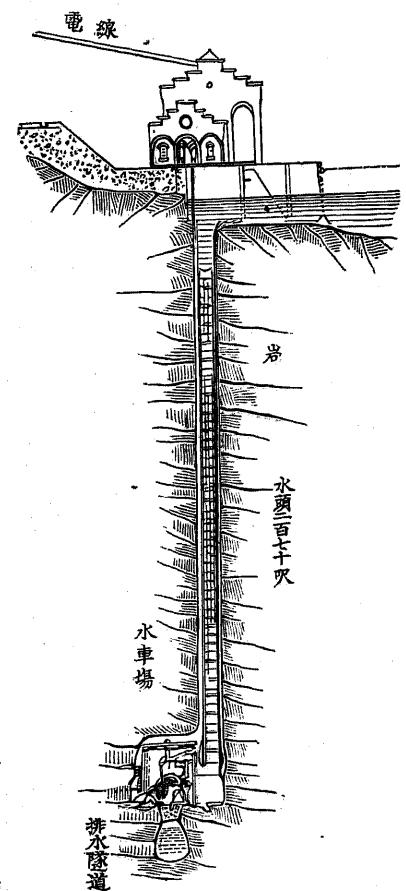
尤も寒氣甚敷地方に於ては捨沢以上にせざれば氷結する患あるところあり又水車へ導ける水管

STOCK も其長さと太さとに

第二十圖



第十九圖

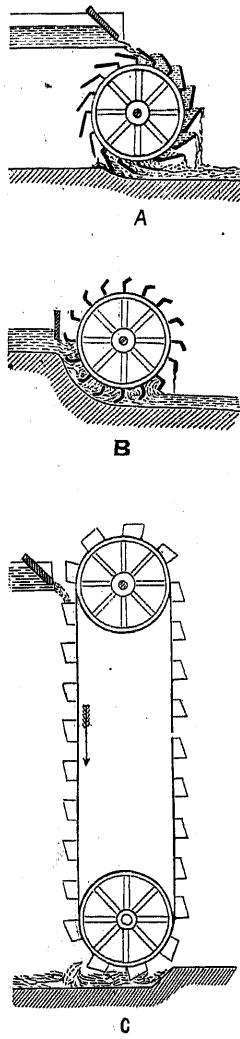


よつて其流水速度を定むるに大差ありと雖も普通小徑の水管にて事足ると
ころに於ては一秒時三呎位とし大徑の水管を要するところに於ては一秒時
十呎位とす尤も水車に衝撃水車 impulse wheel を使用するところに於ては大な
く速度を水に生ぜしめたることは水力の損失とならずして其速度の爲めに
失ふ摩擦水頭丈けが實際の損失となる故に水管 Penstock 短く勾配甚だ急に
して水頭多き場處に於ては前記の速度よりも遙かに大なる流速を有せしむ

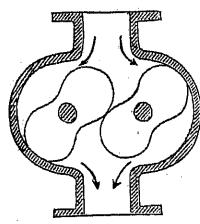
ることあり又排水管の下流水位洪水面上にあるべき高さも最高水位に好都
合なる位置に置くときは平素水力に大なる損失を生ずるものなるが故に幾
多の好實例を参照して實地に照らし決定するの外に途なし。

水 車

第九十三圖



水 車



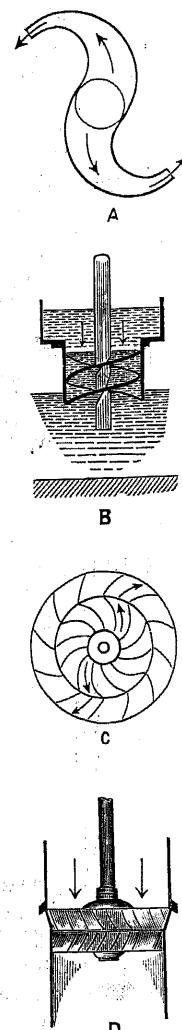
水 車

水車 water wheel とは車の周囲の一部分へ水の掛りつ
つ廻轉するものを云ひ「タービン」水車 turbine とは車周
圍全體へ同時に水の掛るものと云ふ。

水車は大別して重力水車 Gravity wheel (第九十三圖)

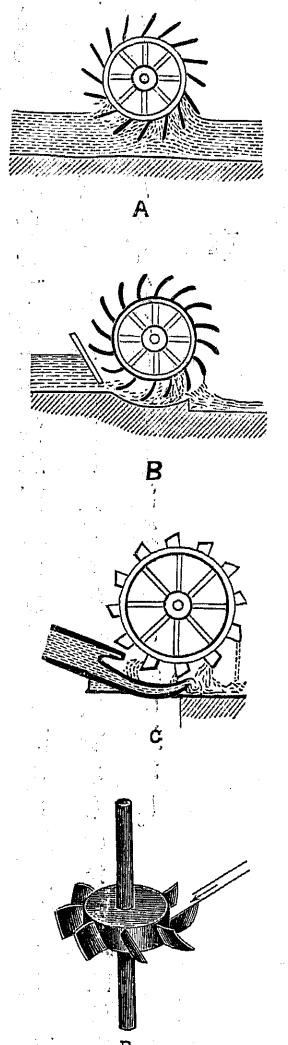
反衝水車 Reaction wheel, (第九十四圖) 及び衝擊水車 Impulse wheel (第九十五圖) の三種とす。

第九十六圖は「タービン」水車の据付圖を示す。

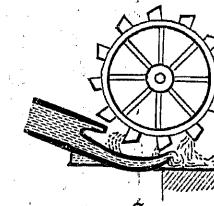


第九十五圖

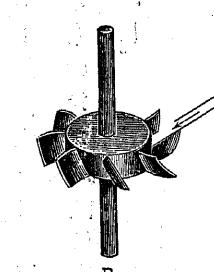
第九十四圖



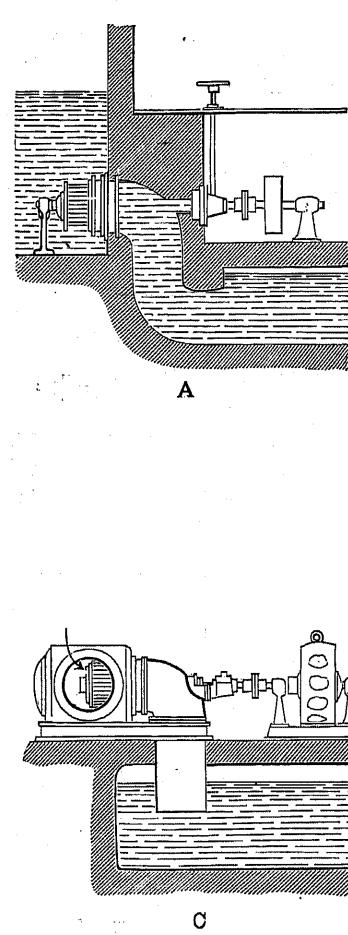
B



C

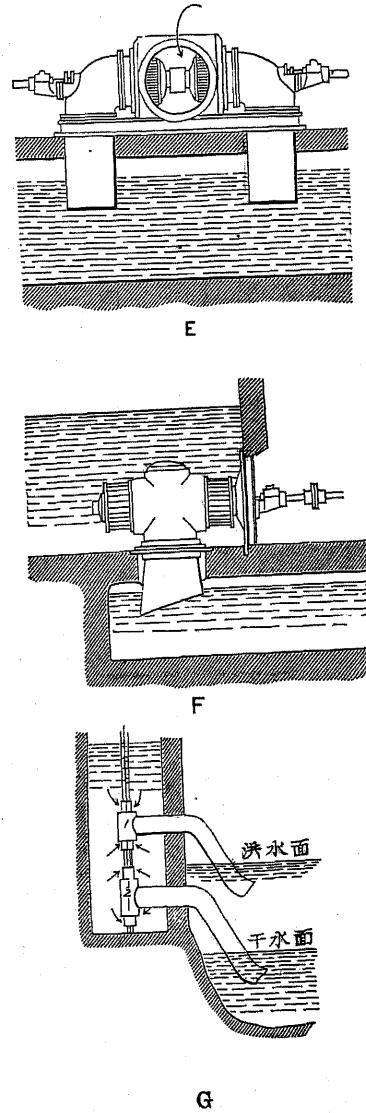


D



第九十六圖

水車



「タービン」水車据付方は第九十六圖に示す如し。

「タービン」水車には車軸の垂直なるものあり水平なるものあり流水の方向によつて區分され、Radial flow, Axial flow, Mixed flow や導水器に Full admission ~ Partial admission ある名稱へしては Fourneyron, Jonval, Francis, Thomson, Fountain, Herschel, Koecklin, Victor, American, Swain, Hercules, Ridson, Tremont, Girard ある。

衝擊水車に於ては Pelton, Doble, Cascade あり概して水頭四十呎未満のもの。

るに於ては American 形よろしく川四百呎未満に Francis 形よろしく川四百呎以上のものに於ては Girard 及 Pelton 形よろしと雖も簡略には説明し難し。

水頭 呎	水車直徑 六呎		水車直徑 十二呎		水車直徑 十八呎		水車直徑 二十四呎	
	A	B	A	B	A	B	A	B
50	1083	0.21	541	0.49	361	0.84	370	2.65
100	1530	0.60	765	1.40	510	2.82	382	7.49
150	1875	1.10	927	2.58	625	4.87	468	13.77
200	2160	1.70	1080	3.97	720	6.74	540	21.20
250	2418	2.38	1209	5.56	806	9.42	605	29.63
300	2652	3.13	1326	7.31	884	12.38	663	38.95
350	2865	3.94	1432	9.21	955	15.61	716	49.09
400	3.63	4.82	1531	11.25	1021	19.07	765	59.98
450	3249	5.75	1624	13.43	1083	22.76	812	71.57
500	3426	6.74	1713	15.73	1142	26.66	856	83.83

水頭 呎	水車直徑 二呎		水車直徑 四呎		水車直徑 五呎		水車直徑 六呎	
	A	B	A	B	A	B	A	B
50	180	5.98	135	10.60	108	16.63	90	23.93
100	255	16.84	191	29.93	153	46.85	127	67.36
150	312	31.01	234	55.08	187	86.22	156	124.04
200	360	47.75	270	84.81	216	132.70	180	191.00
250	408	66.74	302	118.54	241	185.47	202	286.96
300	442	87.73	331	155.83	265	243.82	221	350.94
350	477	110.56	358	196.38	285	307.25	238	442.17
400	510	135.08	382	239.94	306	375.40	275	540.35
450	541	161.19	406	286.84	324	447.95	370	644.78
500	571	188.80	428	335.31	342	524.66	385	755.20
600	625	248.16	469	440.77	375	689.63	312	992.65
700	675	312.73	506	555.46	405	869.06	337	1250.92
800	722	382.09	542	678.68	433	1061.81	361	1528.36
900	766	455.94	574	809.82	459	1267.02	383	1823.76
1000	807	534.01	605	948.4	484	1488.97	408	2136.04

A ハ一分時ノ水車軸ノ迴轉數 B ハ水車軸ノ馬力數

又極めて水頭少なめといふにして餘分の水あるところは之を利用して排水管に真空を作らしめんとする Fall increaser なるものを併用すれば水力を増す。

水車による電気の発生

以上水車は園芸機械としての利用

Frizel — Water power (1903)

Bligh — The practical design of irrigation works.

Koester — Hydro-electric developments and engineering (1909)

Mead — Water power engineering (1908)

Church — Hydraulic motors. (1905)

Beadsley — Hydro-electric power plants. (1907)

Adams — Electric transmission of water power. (1906)

水力馬力の計算

$Q = \text{一秒時の流量立方呎}$

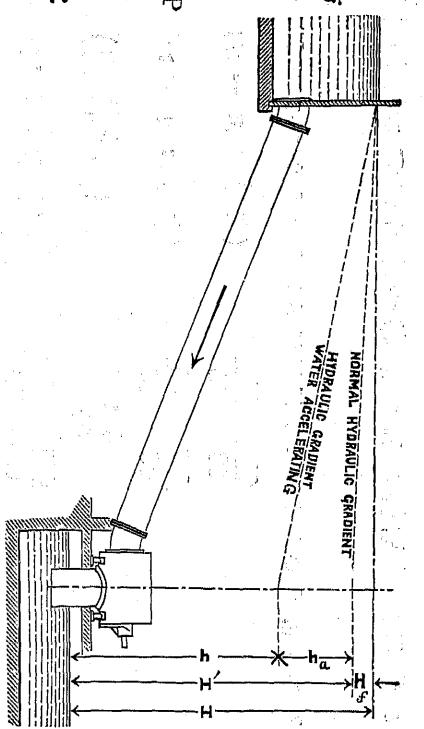
$H = \text{總落差呎}$

$H_t = \text{總水頭損失呎}$

$H' = H - H_t$

$HP = \text{水力馬力}.$

第一九十七圖



$$HP = Q \times (H - H_t) \times 62.425$$

又 $Q^t = \text{一分間の流量立方呎}$
駅とせば

$$HP = \frac{Q^t \times (H - H_t) \times 62.425}{33,000}$$

水車軸に於ける馬力 EHP

(Effective Horse Power) は HP
に能率 E (Efficiency) を乗じて
るものにして

$$\begin{aligned} EHP &= E \times \frac{Q(H - H_t) \times 62.425}{550} \\ &= E \times \frac{Q^t(H - H_t) \times 62.425}{33,000} \end{aligned}$$

水車の形及状態により其大略次頁に示すものゝ如し。
流水の度合を増加するものも水頭 accelerating を計算複雑なる故に圖

中には状態を示すと流水の度合減らす water retarding と共に之を略す。

水車の種類

E 能率

Undershot water wheel	(下掛水車)	$\frac{20}{100} - \frac{50}{100}$
Breastshot "	(腰掛け水車)	$\frac{50}{100} - \frac{60}{100}$
Overshot " "	(天井掛け水車)	$\frac{60}{100} - \frac{70}{100}$

Poncelet undershot water wheel (ペンゼル水車)

 $\frac{60}{100}$

Pelton water wheel (ペルトン水車)

 $\frac{80}{100} - \frac{85}{100}$

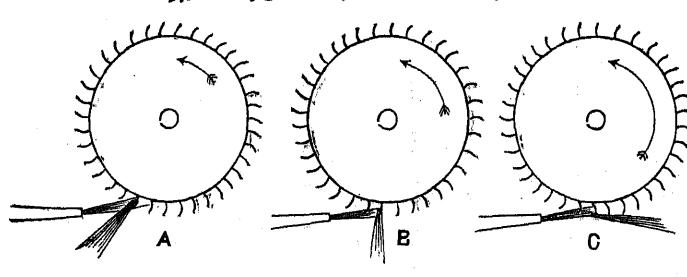
Turbine

 $\frac{70}{100} - \frac{85}{100}$

(Water Wheel と Turbine が水車の一部面にかかるものを云ひ其全面にかかるものを Turbine と稱す)

Pelton wheel に於ては第九十八圖Bに示す如く衝撃したる水が垂直に落る場合能率最大にして水車回轉數割合に少なからずA圖の如く又過

第十九圖



Pelton wheel

大なる回轉をなすとすれば圖の如くになり共に能率悪し Turbine 又之に類す Gravity wheel の場合又は Water pressure engine 水壓機等の場合に於ては速度によつて能率の變化を生ずること前二者よりも少なし。

水車に於て速度の調整は必要なることにして殊に發電機を動かす場合に最も肝要なり余が明治二十三年京都琵琶湖疏水工事の水車に deflecting nozzle 速度調整器を作成し急場の用に供し當時世の賞賛を受けたるものは一臺僅に一百馬力の水車にして今日考ふれば實に不完全のものなり其後水車も大に進歩し器械も完全となり一臺一萬馬力以上のもの少なからず其速度調整器も大に改良せられたり。

水力を電氣に移し遠隔の地に導くときは發電機送電線の都合によりて有効に使用し得るものは原水力の凡そ二分の一に出でるべし今總水力を1.00と假定して計算したる一例を示せば左の如し。

能率	平均能率	有効割合
水車(.75-.85)	0.80	$1.00 \times 0.80 = 0.80$
發電機(.92-.96)	0.95	$0.80 \times 0.95 = 0.76$
變壓器(.94-.96)	0.95	$0.76 \times 0.95 = 0.72$
送電線路(.85-.90)	0.88	$0.72 \times 0.88 = 0.63$
變壓器(.94-.96)	0.95	$0.63 \times 0.95 = 0.62$
配電線路(.88-.92)	0.90	$0.62 \times 0.90 = 0.56$
發動機(.70-.90)	0.85	$0.56 \times 0.85 = 0.45$

左に附録として掲ぐるものは水力の計算に必要な數及水力事業の實例なり。